「見沼たんぼくらぶ」について

Activities of "Minuma Tanbo Club"

沼 尚司*
Hisashi NUMA

1. 「見沼たんぼくらぶ」とは

「見沼たんぼくらぶ」は、見沼田圃の保全のための様々な事業活動に住民参加していくためのステージを提供することを目的として設立された、見沼たんぼのファンクラブであり、サポーター的な組織である。

埼玉県総合政策部土地政策課内に事務局をおき、川口市企画財政部総合政策課、浦和市政策企画部政策企画課、大宮市企画財政部企画調整課が連絡窓口となっている。

2. 「見沼たんぼくらぶ」のめざすところ

(1) 見沼田圃の概要

川口市、浦和市、大宮市の三市にまたがる見沼田圃は、南北方向に約14km、外周約44km、面積約1,260haにおよぶ首都近郊に残された大規模な緑地空間となっている。その多くは畑や苗木畑などの農地で占められており、また、見沼代用水や芝川が流れる自然環境は、武蔵野の面影を残す周辺の斜面林や屋敷林とともに、多くの野生生物の生息地となっている。

(2) 見沼田圃の多面的機能

江戸時代、沼・湿地であった見沼を灌漑用水池（見沼ため井）に、そして利根川から用水路（見沼代用水）を掘り、見沼ため井を干拓して現在の見沼田圃ができ、農地として長く利用されてきた。しかし、もともと低地である見沼田圃は水害が起りやすく、1958年の台風22号（狩野川台風）の際には、見沼田圃はもとより、下流の川口市街の大半が浸水するという大きな被害が発生した。このときの約1000万トンといわれる見沼田圃の湛水量は大きな注目を浴び、その遊水機能を維持するため、見沼田圃の宅地化は原則として認めないとする「見沼田圃農地転用方針（見沼三原則）」が1965年に定められた。

さらにその後、見沼田圃は首都近郊に残された重要な緑地空間としての土地利用を求める声が高まり、1995年「見沼三原則」に代わる「見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針」が策定され、農業振興をはじめ、治水機能、自

然環境などの見沼田圃の多面的機能が注目されている。

(3) 見沼田圃の素晴らしさ

見沼田圃の素晴らしさは、人と自然が密接な関係にあるところだと思っている。長く農地として利用されてきた見沼田圃は人々の生活の中にそのまま融合し、見沼の文化が育まれてきた。見沼田圃は四季折々の風景、野生生物との出会いを私たちに楽しませてくれるが、その背景には、先人の知恵と技術、人々のくらしなど、人の手を介して守られてきたことを忘れてはいけないと思っている。

(4) 「見沼たんぼくらぶ」の設立

今、見沼田圃は、減反政策や高齢化などによる後継者不足も相まって農地の荒地化が問題となっている。

現在、埼玉県では「見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針」に基づき、全国に先駆けて農地の公有地化（農地を農地として買取り、借受け）を行う「見沼田圃公有地化推進事業」が進められている。これは、見沼田圃の農業生産基盤としての価値よりも、農地の多面的機能として、治水機能や緑地空間としての価値を、地域住民の方々に認識してもらい、農家だけでなく、非農家や都市住民のみんなで守っていくことを目的としている。

自然保全や環境保全に関しては、『規制で守る』、『お金で守る』、『人の力で守る』、この三つの力が互いに協力し、

写真-1 見沼代用水東縁と斜面林

*埼玉県総合政策部土地政策課

補完しあって守っていくことが必要であり、また、そのうちのどれかひとつが欠けてもうまくいかないと思っている。

見沼田圃は、これまで「見沼三原則」などによる規制や、埼玉県と地元三市（川口市・浦和市・大宮市）による公有地化の基金など、お金で守る部分も進み始めている。そして、見沼田圃の良さを大勢の方に認識してもらい、生活の中に人と自然が深く関わってきた『見沼の自然と文化』を継承していくため、人の力が主となって守っていくものとして「見沼たんぼくらぶ」が設立された。

3. 「見沼たんぼくらぶ」の特徴

「見沼たんぼくらぶ」は、①『楽しく（喜びが原点と考えている）』、②『自ら身体を動かす（実際に自分で動くことが大切）』、③『様々な活動をつなげる（つなげていくことに重きをおいている）』の3つを合い言葉に、いろんな考え、いろんな立場の人が、自由に気軽に入会し参加できるくらぶである。例えば、「見沼たんぼくらぶ」の会報誌である「（仮称）見沼通信」の製作にも、多くの方がボランティアとして参加していただき、創刊号を発行することができた。

また、公有地化された場所には、市民農園や福祉農園などとして利用されているが、利用されている方々から、自ら汗を流して見沼と係っているという実感や、人との交流の場として楽しんでいるといった、有意義に活用されている声なども寄せられてきている。

4. 「見沼たんぼくらぶ」の活動

「見沼たんぼくらぶ」は、1999年6月に発起人会を立ち上げ、11月に設立総会を開催した。まだ、発足して数ヶ月しか経っていないが会員は既に約1,100人（2000年1月17日現在、個人会員1,048名、法人・団体会員45名）、となっており、8割が三市＜川口市（198名）・浦和市（384名）・大宮市（382名）＞の方で占めている。

「見沼たんぼくらぶ」は、以下の六つの活動を進めたいと考えている。

- ①見沼に関する総合的情報の提供
- ②見沼田圃の保全に資するため、環境保全活動やレクリエーション事業など、各種事業の開催
- ③県で公有地化した土地を活用して、市民農園等の運営や花いっぱい運動の推進

- ④見沼の自然、農業、歴史、文化等についての学習講座を設けるなど、見沼の魅力の再発見やその普及
- ⑤見沼たんぼを舞台に活動する他の団体と各種事業を共催するなど、協力・連携して、見沼の保全に努める
- ⑥会員相互の交流の機会の提供

5. 「見沼たんぼくらぶ」の課題と今後の展望

まだ会がスタートして数ヶ月しか経っていないため、課題というよりも展望として下記の五つを挙げてみた。

- ①現在の県に事務局がある状況から、住民主体による運営・活動に移行。
- ②企画・運営・会誌の発行など、会員の役割分担といった活動に伴う組織（システム）の充実。
- ③より多様で充実した活動を進めるため、営農農家や見沼に関わる様々な団体との協力・連携（ネットワーク化）の推進。
- ④「自然（環境）保護」と「人手の入った自然」との見沼田圃のあり方に対する合意形成。
- ⑤会員数の増加に伴う、活動内容の充実。

今後は見沼における様々な情報発信の場としてだけでなく、住民を主体とした様々なイベントの企画・運営、公有地化された土地の有効活用などについて、みんなで考え、実践するような会に発展させ、憩いの場であり、自然観察や農業体験の場として、みんなに愛される見沼たんぼを残していきたいと思っている。

最後になりましたが、当原稿の作成に協力をしていただいた会員の林賢一氏に感謝いたします。

写真-2 一面に広がる田園風景